

これからどうなる私たちの保険証 TVでお馴染みの萩原博子さんが熱く語る

医療を守り、混乱回避のために現行保険証継続を



講師の萩原博子氏

その一つがマイナ保険証の導入である。これを説明し、「国に対する信頼度が低いままでは国民の理解は得られない」ことを指摘したほか、診療所の休業業・解散

萩原氏は第一声、「保険証廃止でみんな不便」患者も、医療現場も、大混乱」と述べ、強引に実質「医療DX」の構築に向けて政府は総力をあげてオンライン資格確認に

来月12月2日から現行の健康保険証が新規発行されなくなり、マイナ保険証に原則一本化されることに伴い、実情を多くの人に知ってもらおうと、「これからどうなる私たちの保険証」と題して、市民公開・オンライン学習会を行いました。経済ジャーナリストでテレビでもお馴染みの萩原博子氏が講師を務め、会員・市民など80人が参加しました。なお、本田会長が写真やスマホ等を用いて、簡単にすりすまし受診ができるなど、オンライン資格確認システムの脆弱性についても説明しました。

「このままでは戦後60年かけて構築した、世界に誇れる医療保険制度と医療提供体制が崩壊する」と警鐘を鳴らしました。政府が、マイナ保険証の利活用を進める理由の一つは災害対策だったが、能登半島の被災地では、マイナ保険証よりも、S u i c a が利用されたことから、「停電すれば使えない、役に立たない。当面は使いたい人が使うシステムがよい」情報弱者

が顕著であり、その理由の一つが強引な医療DXによるところが大きく、「このままでは戦後60年かけて構築した、世界に誇れる医療保険制度と医療提供体制が崩壊する」と警鐘を鳴らしました。

の切り捨てはあつてはならない」「紛失した場合、再発行まで1〜2カ月かかる。自治体・保険者の事務負担もかかる」と、利用者の立場から意見を述べました。一方、マイナ保険証や資格確認書など、患者毎に違う証を確認する必要があることを説明しながら、「高齢者や障がい者、乳幼児の資格確認への対応は過度な業務となる。人手不足も相俟って、窓口の大混乱は必至」「2026年の新カード発行で新たなシステム導入が見込まれているため、さらなる負担が増大する」と、

「保険証残せ」の声を強めながら、自分の意思で今取得できる保険証等を利用しよう」とアドバイスしました。

「この10月28日から、マイナ保険証の登録解除手続きについて正式に可能となりました。国保、保険組合など、自分の保険証の発行機関に対して文書で解除依頼を行うことになりすまし受診が完了した後は、通常の保険証として利用できる資格確認書が発行される仕組みになっています。登録解除の一連の手続きに、医療機関が関与することはありませんが、受付の顔認証リーダーで、患者本人が「誤って保険証登録した」場合など、受付で解除手続きの相談に乗る場面はあるかもしれません。

この10月28日から、マイナ保険証の登録解除手続きを開始する保険者に書面提出

10月28日から
マイナ保険証の解除手続き開始
申請は加入する保険者に書面提出